

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概要

ブロック名(会則に記載)の後に番号や歩行の通称を記載しても良い

ブロック名	近畿ブロック 6
歩行区間詳細 (分り易い地点)	スタート地点: 尾鷲駅 ゴール地点: 熊野市駅
実施期間	2019年3月26日(火) ~ 3月29日(金)
全歩行距離	62 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	横山泰一	73	4	13期
2		住山 茂	73	4	12期
3		甲田みつえ		4	故甲田征三夫人
4		横山弥生	72	2	13期

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離/km	歩:行参加者	備考
1	3月26日	尾鷲駅~紀伊松本	10	横山泰一・弥生、住山、甲田	
2	27日	八鬼山口~三木里	11	同上	
3	28日	三木里~二木島駅	22	横山、住山、甲田	
4	29日	二木島駅~熊野市駅	19	同上	

4. 参加費

参加者延べ日数 3人×4日+1人×2日

参加費合計 1,400円

5. 費用概算(横山の場合)

交通費 JR(大人の休日切符使用) 23,400円

JR(紀勢本線) 480円

バス(町営バス)、タクシー 1,500円

宿泊費(ビジネスホテル 朝食付き) 19,800円

夕食、アルコール代金 15,000円

昼食その他 3,000円

合計(1人当り) 62,780円

6. 歩行の詳細

3月26日(火)晴れ

名古屋駅で合流した参加者一同は紀勢本線南紀3号で尾鷲駅に到着した。駅前のビジネスホテルに荷物を預けてから歩行を開始した(12:45)。今日は尾鷲市街の熊野街道を歩き「熊野古道センター」に立ち寄ってから紀伊松本まで歩く予定だ。熊野街道の入口がわからず、片袖橋から矢ノ浜道へ入り、石像などを探しながら入り組んだ道を歩いた。地元の人から分かりやすい一般道を教えられ、熊野古道センターにたどりついた(14:07)。高台に建つ尾鷲ひのきを使った立派な施設だ。交流棟で熊野古道の状況等を聞き、熊が出ると言われて驚いた。反対側には熊野古道の歴史や自然に関する展示棟があり、隣には海洋深層水の温泉施設「夢古道の湯」もあるが先を急ぐことにした。



尾鷲駅前を出発



矢ノ浜道の道標と石碑



熊野古道センター

熊野古道センターを後に(14:20)海岸沿いの県道778号へ出ると、向井黒の浜に浮かぶ弁財島が干潮で陸続きとなっていた。潮干狩りをしている人々が見えたので、海岸へ降りてみた(14:30)。この海岸は無料で潮干狩りができ、人気のスポットらしい。



熊野古道センターを後に



向井黒の浜へ降りる



潮干狩りの人たち

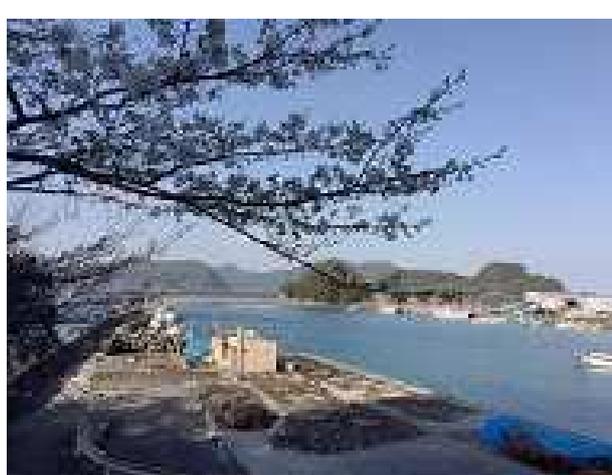
あさりや牡蠣がバケツに入っているのを横目で見ながら弁財島に歩いて渡り、頂上の小さな神社にお参りした。再び県道に戻り、尾鷲湾に出る。海沿いを歩き、紀伊松本へ出た。小さな漁港で民家が山裾に並んでいる。バスで尾鷲駅前へ戻りビジネスホテル胡蝶館に宿泊した。



島の神社で



ヒジキを干している海岸



桜が咲いていた紀伊松本の漁港



漁師町の通り



紀伊松本バス停近くの漁協で

夕食はホテルで薦められた割烹料理屋・鬼瓦へ。



27日(水)快晴

熊野古道センター近くの八鬼山(やきやま)越え熊野古道入口までタクシーを利用した。このため厳密には古道センターと古道入口間の約700mを歩いていない。別の機会に歩行する。熊野古道入口の道標を見つつ、出発した(8:05)。八鬼山の標高627mにちなみ、峠の反対側である三木里の入口までの道程を63分割した道標が設置されている。その1/63番目である。



出発前の記念写真



八鬼山越え熊野古道入口



スタート地点道標(1/63)

平安時代後期(12世紀)に拓かれた熊野古道の中でも八鬼山越えは「西国第一の難所」とされ、大きな自然石を使った苔むした石畳の道は世界遺産にふさわしい。やがて駕籠立場・町石に到着(8:45)した。駕籠を止めて紀州藩主が小休止した跡や、一町ごとに設置された町石(道標)がある。ヒノキの大木があり、パワーを頂戴した。



石畳の道を歩く



八鬼山町石

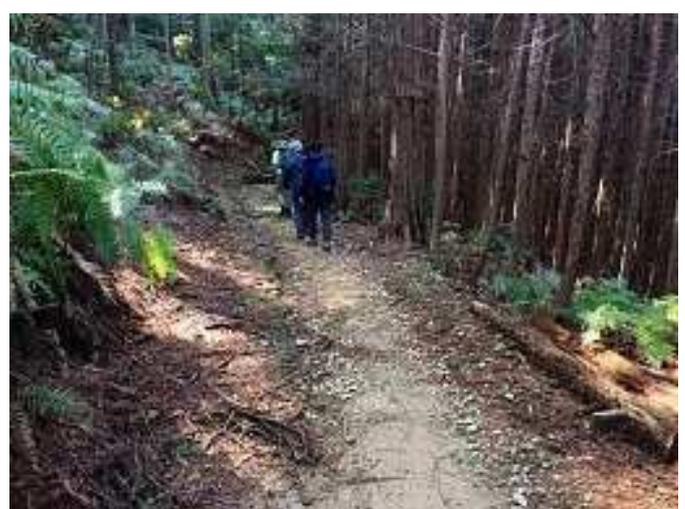


ヒノキの大木

七曲り(9:20)は難所八鬼山越えの中でも一番の難所。つづら折りにつくられ、ここを登りきると道は平坦となり一休みできる。昔の人の道づくりの工夫に敬意を表しつつ、古道をひたすら登る。道端には行き倒れ巡礼碑や地藏尊が安置され、旅人の苦労がしのばれる。再び道は巨岩の転がる間を通してゆく。石畳にする石がいたるところにころがっている。西国三十三所第一番札所の前札所として、多くの人がお参りした荒神堂に到着(10:35)。



七曲りのつづら折りの道



七曲りを登り切ったところの平坦な道



烏帽子石(向こう側)と蓮華石(手前) 大きな石が転がる道

荒神堂

最後のひと登りで八鬼山峠に到着した(10:50)。八鬼山頂上(11:00)を經由して、桜の森広場(11:10)到着。ここからの絶景が素晴らしく、戦国時代の九鬼水軍の本拠地九鬼湾とその向こうに熊野灘が見渡せた。ここで昼食。



八鬼山峠と地藏尊

八鬼山(647m)山頂にて



桜の森広場(標高 652m)

桜の森広場から熊野灘を望む

下りも石畳の急坂が続いた。こちらは植生が広葉樹となり明るくなった。途中、「世界遺産反対」と植林したヒノキの幹に白ペンキで書かれた文字に驚かされた。世界遺産指定で狩猟ができなくなった地元「名柄」集落の地権者の訴えであることを後で知った。自分たちの生活道路や狩猟の場としての自然が世界遺産に登録されて、多くの観光客が訪れる。その結果として狩猟ができなくなり、果ては大量のゴミを放置することへの憤りは理解できる。



三木里への降り



猪垣

名柄一里塚跡(13:45)到着。平坦な道となり、ほっとする。海拔ゼロからの650mの山越えはさすがに疲れたが、所々に休むところや道づくりの工夫が見られ、昔の人の知恵が感じられた。猪垣の残る平坦な古道を歩いて三木里の集落へ出ると目の前に三木里海岸が見え、国道311号へ出た。三木里駅へ歩いて行くとちょうど尾鷲行きのバスがあるので乗ることにした。三木里バス停・病院前到着(14:31)。



三木里



三木里のバス停

三木里バス停からバスで尾鷲駅前に戻った。

夕食はホテルで薦められたもう一軒の割烹料理屋へ。昨日と同様に混んでいて、しばらく料理が出せないといわれた。歓送迎会シーズンのためらしい。しかし、料理は安くて美味しかった。夕食の途中で横山弥生は帰京した。



割烹田舎へ入る



伊勢海老も入った豪華な御造り



カサゴのから揚げ

28日(木)晴れ

尾鷲駅前からバスで昨日の歩行終了地点三木里の病院前バス停へ行き、歩行開始(8:20)。国道311号を賀田湾の美しい海を見ながら歩いた。国道沿いには熊野古道入口の標識が所々にあったが無視して国道を歩いた。江戸時代の終わり頃には既に首がなかったと伝えられている首なし地藏、樹齢1,000年以上の大きなクスノキの飛鳥神社に立ち寄った(10:13)。拝殿前に大きなクスノキがあり、裏に回ると根元に大きな空洞がある。



バス停から歩行開始



賀田湾



首なし地藏



飛鳥神社の丸い石垣



拝殿前の大楠



裏から

曾根町の曾根次郎坂の看板を見送り国道311号の旧道を進む。桜が咲いていて海との眺めがよかった。梶賀第一トンネル(11:10)をくぐり梶賀町へ。



曾根町の桜



曾根漁港を見下ろす



梶賀第一トンネル入口

トンネルをぬけると賀田湾の先に熊野灘が広がっていた。海の青さが綺麗だった。梶賀漁港到着(11:26)。ここで
お昼にする。梶賀町には斜面にへばりつくように集落がある。半分以上は空き家となっていると漁師の方が話して
くれた。過疎化が進む日本の現実をまた見てしまった。斜面の一番高い所の小学校は 1998 年 3 月から休校となっ
ている(ウィキペディアより)。木造校舎と校庭の桜の花に、子供たちの元気な声が聞こえてくるような気がした。



狭まった賀田湾出口



梶賀漁港へ



網の繕い作業



梶賀漁港



梶賀集落



国道への道

旧国道 311 号はここで途切れた。新道はるか上にできている。食事を終えて(11:50)細い道を登って国道へ出
ると長いトンネルと普通の長さのトンネルをくぐり須野町に入った(12:30)。ここから熊野市になる。



国道 311 号梶賀トンネル(全長 1,300m)



須野トンネル(全長 198m)



国道からの眺め

須野町には、ほとんど人が住んでいないようだ。国道から集落へ下る道はあったが、国道をそのまま進んだ。やがて「楯ヶ崎遠見番所跡」の看板に会う(12:58)。その大きさにひかれて読んだ説明によれば、江戸時代に紀州藩が外国船を看視するために見張所を15か所設けたが、その1つだそうだ。石垣が組み、番人が畑を耕して生活していたようだ。国道からみる海岸線の岩とコバルトブルーの透明度の高い海は非常に美しい。



楯ヶ崎遠見番所跡への入口



この上に番所があった



海岸線を見下ろす

ここから国道を離れ柱状節理が造りだす巨岩壁の楯ヶ崎に寄り道した。国道から遊歩道を降りる(13:26)。約20分下ってやっと海岸の阿古師神社に到着(13:48)した。海からの参拝者を迎える白い石の鳥居が海に向かって建っている。



楯ヶ崎への降り口



遊歩道を降る



阿古師神社



海岸の船着き場に建つ鳥居

神社にお参りしてから楯ヶ崎への道標に導かれて半分山道のアップダウンのある遊歩道に苦戦して楯ヶ崎展望台に到着(14:18)。ここからはまた下りの道を進みやっと楯ヶ崎千畳敷にたどりついた(14:25)。



楯ヶ崎展望台からの眺め



千畳敷からの楯ヶ崎

ここから来た道を国道に戻る予定でいたが、海岸沿いに道路が見えた。灯台を通り先ほど通った楯ヶ崎展望台への分岐にでた。神社まで戻ると海岸へ通じる道があり、小さな甫母(ぼぼ)漁港に出た。国道まで標高差 100m を登らずに済んでほっとした。二木島(にきしま)湾沿いの美しい景色を楽しみながら二木島駅に到着(16:45)し、本日の歩行を終了した。無人駅で周りに商店はなく、17時41分発の紀勢本線で熊野市駅へ。



甫母漁港通過



二木島湾の狭い出口



鯛養殖場



橋を渡って駅へ



二木島駅にて

熊野市駅近くのビジネスホテル広沢にチェックイン。ホテルで紹介された居酒屋へ。日本酒は蓬萊泉、ワインは山

梨ワインが置かれていて、いずれも住山さんつながりのお酒を美味しくいただいた。



くらむぼん甲州

29日(金)曇り

最終日は一足先に帰ることになった甲田夫人を絶景駅とか秘境駅として知られる波田須駅へ送ったのち熊野古道松本峠を越えて鬼ヶ城跡を通り熊野市駅まで歩いた。

朝 8 時にホテルを出発し、弁当屋「かね久」で昼食用のお弁当を購入した。熊野市はサンマ寿司発祥の地であることから、それにした。8 時 24 分発の電車でスタート地点の二木島駅に到着した(8:40)。8 時 50 分に駅前をスタートし、熊野古道の階段を登り二木島の一里塚跡を通過して国道 311 号へ出た。



二木島駅を出発



駅前から熊野古道を登る



二木島一里塚とキリシタン灯籠



国道から二木島集落を望む

国道を進むとトンネルをくぐって遊木町に入った(9:36)。国道から眺める新鹿(あたしか)湾の景色を楽しみながら歩くと白砂の美しい海岸に出た(10:07)。日本で一番美しいと言われている(JR 紀勢本線新鹿駅ホームの看板)新鹿海水浴場だ。海岸に津波避難所の施設が作られている。この地もたびたび津波に襲われている。



遊木トンネル入口



国道から新鹿湾を望む



新鹿海岸へ



新鹿海水浴場の津波避難所



新鹿海岸

神社の前を通り、国道は上り坂となり、標高 100m のトンネルを通ると波田須(はだす)の集落に入る。ここは秦の始皇帝の命で不老不死の薬草を求め渡来した徐福が上陸した土地で、彼にまつわる史跡が残り、墓もある。ここから波田須の駅を目指したが、道がわからず、地元の人に聞く。指されたあぜ道をとおり、細い急坂の道を進んで駅のホームにたどり着いた(11:40)。車では行けない駅だ。両側をトンネルに挟まれた無人駅で駅舎もない。帰ってから調べたら、秘境駅とか絶景駅として有名らしい。ホームのベンチで昼食を食べ、甲田夫人を見送り、歩行を開始。



徐福茶屋



国道から波田須の集落を見下ろす



波田須駅



両側がトンネルの波田須駅

波田須の集落を眺めながら国道へ出ると熊野古道「波田須の道・大吹峠」の入口に出た(12:30)。そのまま国道を進み磯崎トンネルを抜けると、眼下に柱状節理の断崖が続く海岸線に出た(13:08)。大泊の海岸へ出ると大吹峠(205m)越の熊野古道とぶつかる。大泊の海岸も白砂の綺麗な海岸だが、熊野古道の上に堤防ができています。



磯崎トンネル出口



国道下の海岸



大泊の海岸



熊野古道は堤防上に

大泊海岸を過ぎると松本峠登り口(13:23)があり、ここから熊野古道へ入った。綺麗な石畳道が続く
 松本峠には大きなお地蔵さんが鎮座している。このお地蔵さんは建ったその日に妖怪と間違えられて鉄砲傷をつけられたと伝えられているが確認し忘れた。峠から鬼ヶ城跡へ進むと、熊野灘を見下ろす東屋に到着した。地元の女子高生がと一緒に、桜の花の下で浜街道(七里御浜海岸)を眺めた。紀伊半島歩行の最後の日に、2013年に歩き始めた最初の地を眺めることとなった。感慨にふけりながら桜の道を下り、熊野市駅へ向かった。



熊野古道松本峠入口



熊野古道を登る



美しい石畳の道



松本峠のお地蔵さん



地元の高校生と



鬼ヶ城跡から七里御浜を見下ろす



桜の道を下る

熊野市駅に到着(15:13)し、歩行を終了した。



ゴールの熊野市駅



列車の時間まで過ごした駅前の寿司屋

近畿6歩行を歩き終えて

これで四日市から南紀白浜までつながった。2013年11月から5年半かかったが、白浜から先明石までは若手の友野さんと林さんが引きつけてくれて近畿ブロックの歩行完了に目途がついた。今回の歩行から帰った翌日に甲田征三さんの訃報が入り驚いた。甲田さんとは近畿ブロックの1、2、3、4、8を共に歩き、昨年からは腰痛等で歩行を見合わせ、今回は奥さんだけの参加となっていた。甲田さんとの楽しかった歩行や飲み会の思い出が走馬灯のようによみがえってくる。今回は歩かなくても観光だけでもとお誘いもしていたし、近畿ブロック歩行完了の喜びを共にとしたいと考えていました。甲田征三さんのご冥福を心からお祈りいたします。

完

歩行ルート

